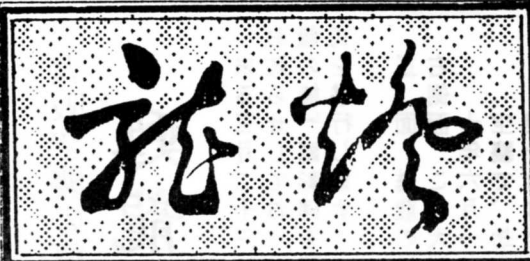


第32号

発行所 大阪市史跡 龍溪禅師墓所  
 靈 龜 山 九 島 禅 院  
 〒550-0022大阪市西区本田3丁目4-18  
 ☎06-6583-2725  
 発行人 住 職 奥 田 啓 知 (智證)



大阪にオリンピックを！ 九条に中華街を！ 二十一世紀まであと一年！

# 成田きんさん大往生

## 死に方にこだわるな！

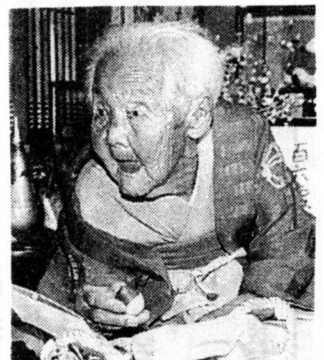
「きんは百歳、ぎんも百歳」のフレーズで日本をはじめ世界でも紹介され、「最年長アイドル」として人気者だった双子姉妹「きんさん、ぎんさん」の姉成田きんさんが、一月二十三日午前十一時三分に名古屋市の自宅で天寿をまっとうされました。長寿国日本の象徴として、昨年にはギネスブックにも「国の宝」として紹介され、その愛らしい姿と天真爛漫な性格は、超高齢社会への不安や不況など、ややもすると暗くなりがちな国民の気持ちを折にふれて和ませてくれました。

昨年八月の百七歳の誕生日に札幌市立札幌苗小学校を訪問したときには、子供たちに「何歳まで生きたいですか」と聞かれ、「百六歳まで生きようと思っただけなので、もういい」と答えていたのが、もういいと答えて会場は爆笑に包まれました。ご家族を予感するようですが、ご家族によると、きんさんは数日前から風邪気味で、死亡当日午前八時半ごろ起床して仏壇に手を合わせながら、「食べたくない。

寝とる」と横になり、午前十時すぎに容体が急変し、主治医や家族の見守るなか、苦しむことなく安らかな大往生だったそうです。

お年寄りにとって、いかに死を迎えたらよいか？その心構えを知ることは、最大の関心事だと言えます。誰しも、安らかな死を願います。従容として死にたいと願望を持っています。でも、人それぞれで、なかなか自分の思うようにはいきません。仏教の開祖のお釈迦さまは、生老病死が「苦」だと教えられています。この場合の「苦」とは、苦と楽が相対的にあるような苦ではなく、絶対的な「苦」そのものです。どうしても楽に転ずることのない「苦」、それが生老病死の「苦」なのです。とすれば、死は絶対的な「苦」であるから、わたしたちがそれを迎える態度いかんによって、苦が軽減されたり、増量されたりはしません。どんな迎え方をしようか、それが「苦」であることには変わりはありません。

そうであれば、どんな迎え方をしたっていいのです。脊椎カリエスのため、三十歳になる前から死ぬまでほとんど病床にあった明治の俳人、正岡子規は、ある日その病床で忽然と気づいたそうです。



「余は今まで禅宗の所謂悟りと言ふ事を誤解していた。悟りと言ふ事は如何なる場合にも平気で死ぬる事かと思つて居たのは間違ひで、悟りといふ事は如何なる場合も平気で生きて居る事であつた」(病壯六寸)

どんな人間も、死ぬまでは生きています。その生をしっかりと生きる事が大事なのです。どうせ死は「苦」なのですから、どんな死に方をしたっていいのです。ありのままに死んでいい、あるいは全部ほとけさまが面倒を見てくださる、ほとけの国に迎えてくださるのですから。それが仏教の信仰なのです。きんさんも安らかに、残された

